

2019年3月期 決算説明会 Q&A サマリー

Q: 機器の生産能力増強のため前期に発生させた一時的費用の影響が無くなり、増益に効いてくるのはいつからか。また、半導体向け製品の生産稼働率が前年比プラスとなるタイミングはいつからか。

A: 増益に効いてくるのは今期の下期と考えております。今期の上期は売上減少が続くため、この減少に合わせ生産性改善を進めてまいります。また、半導体向け製品の生産稼働率は、需要がメモリーを中心に予想を上回る回復があった場合、今期第4四半期に前期第1四半期のピークだった水準まで戻せると考えておりますが、現時点の予想にそこまでは織り込んでおりません。

Q: 流体制御機器、空気圧機器それぞれの在庫状況

A: 流体制御機器は半導体設備投資の増加を見込んで発注を増加したため、在庫が増えました。現在は、発注量を抑え在庫は減少傾向です。一方、空気圧機器は物流センター機能を用いて意識的に製品在庫を増やしております。引き続き在庫管理を強化してまいります。

Q: 前期に機器で大きく発生した経費は下期にどれくらい経費節減できたのか。また、今期に経費削減をどの程度織り込んでいるのか。

A: 経費増加による原価率の悪化額は、第2四半期をピークに第3四半期、第4四半期と減少し、経費削減の効果が出てきております。上期は売上減少が続くと見込んでおり、それに合わせた経費削減を進めます。

Q: 自動機械で収益が回復した理由、および今期も通期15億円のセグメント利益を予想している背景

A: 前期後半に収益が回復した理由は、固定費を含む経費削減、受注から売上に至るまでオーダー毎の原価管理、製品のセールスマックスの改善となります。今期も受注時およびモノづくりの段階における原価管理を継続し、収益を確保できると予想しております。

Q: 今期 半導体の上期指数 73 の背景と今後の見通し

A: 今期第1四半期はメモリーの設備投資が減少しておりますので、売上減少を織り込み上期指数を73とみております。今期後半から設備投資が動き始める可能性はございますので、下期には回復に向かうと見ております。

Q: 新中期経営計画 3カ年の設備投資計画および海外生産開始のスケジュール

A: 設備投資額は260億円を予定しております。海外生産開始のスケジュールは、今期に一部機種の生産開始を北米で予定し、次にインド、そして欧州の順番です。

Q: 新中期経営計画 売上目標 1,430億円に対し、営業利益率 10.0%は控えめではないか。

A: 売上が伸びればさらに利益が出ると想定されますが、工場建設や設備投資も考えた利益目標としております。